

最優秀賞

「建設業のイメージアップ」

東海工業専門学校金山校 土木工学科 1年
山 川 剛 司

私は十九歳の時に機械建設業の会社を作り三十歳の今に至るまで電気、機械設置、点検保全業務等を行ってきました。

現場では、違う監督や違う管理技術者の下で行う仕事にはどうしても内容に違いが出て、特記仕様書通りに業務を遂行しても役所の方や元請の監督の一言で内容もガラッと変わり他の作業員も困惑する場面はよくありました。

そんな中で行う仕事は現場毎での工程手順、品質内容にずれが生じて、トラブルになってしまったことも多々あります。

監督が違えば仕事内容も変わり、監督が変われば現場の空気も現場の進み具合も変わります。思ったことも資格がなければ言えない、対等に扱ってもらえない、まず現場すら入れない、仕事自体取れない。色々な不自由を実感し資格取得を目指したのが東海工業専門学校への入学の理由です。

その中でも土木工学科を選考した理由は今の自分に取り入れたい土木工学の基礎知識、材料や施工方法、力学的な内容が土木工学には総合的に含まれていて、尚且つ卒業と共に専門士の称号も得られ、実務経験短縮はもちろん土木施工だけではなく電気施工等幅広く資格取得の短縮に繋がるからです。

三十歳での入学は仕事の面でも生活の面でもいろいろ不安もありましたが、最低でも今手掛けている仕事内容のどの部門でも管理技術者として通用する資格が欲しいと思い、自分にまず何が必要かを考えたときに自分への将来への投資を考え資格取得を先行しようと思いました。

その資格取得の面では実務経験の問題が大きく関わってきます。

今回の建設業のイメージとしてまず自分は高齢化という言葉が一番に浮かびました。

建設業の高齢化に繋がるポイントとして建設業界の3K(きたない・きつい・危険)などが若年層へのイメージとして定着し、建設業にまず携わろうとしない事が原因でもあります。自分はこの資格取得の際の実務経験も大きく関わっていると思います。

土木や電気、建設等、一級施工管理技士では指定学科を卒業していなければ長いものでは十年以上、技術士では技術士補に受かり尚且つ技術士補助として四年の実務経験をもたなければ試験すら受けられません。

資格を持たない中、作業員として十年働き取れるかわからない資格の取得を志し目指す人はそうはいないと思うので、まずは建設業への入り口(給与面、福利厚生などの厚いサポート)が今までとはどのように変わったかを伝え、社会に建設業の待遇、良さを広めていき、資格を持たない(実務経験がある為取りたくても取れない)人への援助を会社全体で行い資格取得へ向けて

大きくサポートする体制が必要だと思いました。

社会に広げる、知ってもらう方法としては施工管理技士とは何か。技術士とは何か。

それを持っていたらどうなるか。資格の認知度を上げていくことも建設業への憧れの第一歩になると思います。

専門学校に入っても何の資格を取得すればよいか、何年実務経験があるかわからない等、個々で調べて意欲的に資格取得を目指している人がほとんど見られなかった事にびっくりしました。

土木施工管理技士が取れるから、専門士の称号や実務経験が二年等、具体的な実例を挙げられる人がほとんどいない、親の後を継ぐため、なんとなく入ったなど、建設業への関心が工業の専門学生でもないのが今の現実問題です。

学校のホームページ、広告等を作成してもまず若い人が調べて意欲的に見ることはない為、建設業への若年層を取り込むにはさらに若い小学校や中学校に向けてのポスター作りや、ものづくりの楽しみを知ってもらう為、オープンキャンパス等で行っている建設業の触れ合い等、高校生だけではなく小、中学生に向けて行っていく活動なども認知させる意味では大事なことだと思います。

そこから資格の大事さや意味に関心を抱かせ、現場では、ビルを造るには、指揮する人は何の資格が必要か、重機には何の免許が必要か、興味を持ってもらい、建設業のイメージをまず持たせる事が若年層取り組みの第一歩なのではないかと考えています。

若年層の取り組みが建設業を活性化させるのは全ての人が思う事なのに、建設業に携わってくれた人を留めるようにする人がいないのもまた高齢化の原因です。

自分が現場で経験してきたと思う事は若い子はすぐやめるという言葉を利用して人材育成を施す大人が全く見られないことです。

職長教育を受けた際に、山本五十六の有名な言葉である「やってみせ、言って聞かせて、させてみて、ほめてやらねば、人は動かじ」この言葉に感銘を受け、自分が現場に立つ際は、この言葉を思い出して教えていますが、仕事への意欲、効率が格段に上がります。

今この山本五十六の言葉を実行している大人が何人いるか、時代に応じての教え方、ニーズに上の人と合わせる事もまた必要なことだと強く感じています。

建設業高齢化の原因を作ったのも少子化だけではなく今まで建設業に携わってきた高齢の人の若年層への対応も原因だと現場では常々思います。

建設業だけのことではないですが社会全体が思いやりの精神を持ち、怒号が飛び交う現場を一つでも失くし、高効率、高意欲を抱かせる現場を少しでも多くしていき、小さい現場ではありますが私が携わる現場では山本五十六の言葉を胸に建設業のイメージアップに貢献していきたいです。